



トインビー 歴史の研究③

(181~232)

2021.09.06

項目

内容

備考

第三篇 文明の成長
第2章
文明の成長の性質
(181—

1. 最適の挑戦とは

最も大きな刺激を与える挑戦とは、きびしさの過剰ときびしさの不足の中間の程度の挑戦である。不充分な挑戦は、挑戦された人間を全然刺激しないおそれがあるし、反対に過度の挑戦はすっかり士気をくじいてしまうおそれがある。しかし、スバルタ人などの挑戦のはなれわざは、それを行った者に、発展の停止という致命的な罰を課することもある。

真の最適の挑戦とは、挑戦された人間に、ただ一度のうまく成功する応戦をさせるだけでなく、さらに一步進むように刺激する挑戦、一つの事業の達成から、また新たな努力へと前進する挑戦である。それは、地理的拡大が質の低下を示しはじめた5世紀までのヘレニック社会の拡大のように。

挑戦の度

第3章
成長の分析
(198—

1. 創造的個人

創造的な少数者が前進し、非創造的な多数者をそれに従わせる。或いは、慣習の殻を破り、創造的少数者を模倣する。

第4章
成長による文化
(211—

2. 仏教の伝播

- (1) 釈迦牟尼 BC566~486(BC462~383)
- (2) 鳩摩羅什 344~413(350~409)
- (3) 智顗 天台大師 538~597、法華主義

項 目	内 容	備 考
(4) 聖徳太子 574~622、三経義疏、仏教興隆 (5) 最澄 767~822、伝教大師、顯詮、奈良七大寺と京都の対立 (6) 桓武天皇 737~806、794 平安遷都 (7) 空海 774~835、弘法大師 (無量義經) 釈尊最後の説法、すべての教えはただ一つの真理、無量義にある。 無量義(数限りない教え)－無相、実相－世界は一切が平等、虚空－諸行無常－変化の中の一切の本質を見る－生・住・異・滅－自利利他		

3. 真理と価値

「価値」とは、対象と我との関係を表現したもの、主観である。

「真理」とは、有りのままの実在を表現したもの、客観である。

価値は、対象と人生との情的関係性であり、真理とは対象の概念であり、全くその性質を異なる。

価値は、人生に質的に関係するものであり、真理は、あるがまま量的なものである。

価値は人が創造するものであり、真理は、真が偽であり創造することはできない。

有益性は、創造であり、価値である。

真・善・美という系列は、真という客観と善美という価値の無関係な並列であり、利・善・美の系列が正しい。

真理は不变、価値は可変

教師の質が教育を左右する－価値

(創価教育学体系 牧口常三郎著)

1

トインビー 歴史の研究④

(233~311)

2021.07.05

→

項目

内容

備考

第四篇 文明の衰退

(213~

第4章

自己決定の能力の減退

(233~

1. 衰退の原因

- (1)神のしわざではなく、
- (2)意味のない自然の法則のくり返しでもなく、
- (3)環境を支配する力の喪失のせいでもなく、
- (4)工業技術の退化や外敵のせいでもない
それは文明の自殺である。

文明の自殺

2. 有機体の機能

自然は有機体の機能の90%ぐらいを、自動的に最小のエネルギー消費で行われるようにしている。
ここに破局の危険が潜んでいる。

慣習の殻

「慣習の殻」で安定していた社会が、向きを変えて創造的リーダーにひきいられていくとき、成長する社会は危険に直面しなければならない。

3. 古い皮袋に入れた新しいぶどう酒

(237~

(徳行品第一)

お釈迦さまが、靈鷲山で説教されるとき、そのまわりには多くの出家修行者、菩薩に、空の鳥や妖怪、地の動物や鬼神、海底に住む魚や鬼たちも加わり、大王や諸国の王や女王、その家来などが整然と控えておりました。

お釈迦さまは、すべてのものに上下ではなく、この世はすべての広さと高さに限りはなく、どこまでも澄みきっており、一切の差別はないと話された。また、仏というのは、善行を積み、慈悲の心を持ち、智慧、解脱、知見などの修行の結果であり、仏も衆生の一人として法華経の善行を積んだ結果である。

仏の命、人の命は、有るとか無いとかで図れない。何かの因となったり縁となることもなく、自他の区別もない。四角いとか丸いとか、短いとか長いとかで考えるものではない。出るとか隠れるとか、生ずるとか滅するものでも

項 目

内 容

備 考

なく、坐っているでも、臥しているでも、行くでも住まるものでもない。
 動いているとか、転がるとか、じっとしているものでもない。
 進んだり引いたり、安全であるとか危険であるといった見方では考えられない。
 これは、得になるとか損失になるとか、そのような計算ではない。
 あれはこう、これはああという区別はなく、あちらに行くでもこちらに来るでもない。
 青でもなく、黄でもなく、赤いでもなく、白でもない、それは色で現わしようがない。
 それは自分の、人の、世界の生命であり、すべての幸福を求めることが根本である。

(説法品第二)

仏の説かれる“法”は一つ、根本原理はただひとつその一つの法から無量の（数かぎりない）法が生まれる。

世尊は問われて、答えられました。

よろしい、いい時に訊いてくれました。いま、訊かないとその機会はないのです。わたしはもうすぐこの世を去ろうとしているのですから・・・。
 世の中のことば、上、下もない。平等で透きとおっている。そして、無常で変化してやまない。その中で一切のものごとの実相を見極める修行をすることが大切である。

先ず、その世界を見つめる、どんな世界かを正しく見極める。

- (1)それから、そこに生ずるものを見つめる
- (2)生じたものが安定することを見つめる
 生じたものは変化しないかどうかを見つめる

項 目	内 容	備 考
-----	-----	-----

(3)変化したらそれを見つめる
 (4)変化が滅になることを見つめる
 これらを冷静に見通さねばならない。同時にその善惡も知らねばならない。
 世の中は、変化して一刻も止まず、その生、住、異、滅という変化を見てとらねばならない。その中から無量の教えが明らかになる。

(十功德品第三)

法華経の教えを実行すれば、十の不思議な功德がある。

- (1)大乗の教えを学び、自分の幸せ(自利)と人の幸せ(他利)を起こさせる
- (2)この教えは、譬えれば心に一個の種子を植え、その成長を図るものである
- (3)この教えとは、力の強い人が重い荷物をかついで遠い道を力強く行く觀がある
- (4)竜の子が生まれて7日も経たないのに、よく雲を起こし、雨を降らせることができるようなものである
- (5)この教えを聞けば、どんな困難があっても進もうという強い心が起きる
- (6)この教えを修得すれば、幼い、弱い身であっても自立した考え方と行動ができる
- (7)この教えは信ずれば、自他の間に差別を感じず現象の変化に迷うこともない
- (8)この教えは、人に深い慈悲の心を生じさせ、人々を救うことができる。
- (9)この教えに接すれば、人は魂の躍動を覚え、清らかな心となる。
- (10)さまざまな信仰の結果と仏の道を悟ることができる。(法華経 無量義経)

項目

内容

備考

(304~439)

リシウ

昌光は前秦の皇帝苻堅の命でト」。

五胡十六国時代

鳩摩羅什を求めて龜茲(クズ)に出征し、龜茲を下して
羅什を得た。しかし苻堅が淝水で東晋に敗れたのと
同じく姑臧(甘肃)にて自立し、大涼王(だいりょうおう)と号した。
(武威)

鳩摩羅什の父はイトの貴族で、母は龜茲の王の妹であった。

AD 350年頃龜茲で生まれ、7歳で出家し、9歳で女比丘

カルマーラへ行き仏教を学んだ。仏教界の天才と呼ばれた。

身軽から東方へ仏教を広めることを主張していた。これまで生きはいつて老死入り仏教の漢訳という大業にこだわった。

龜茲の言語は、ギリシア語やラテン語の言語と云われている。

羅什の200年ほどの後、藏法師玄奘というもう一人の仏教界の天才が
出世する。玄奘の仏典汉訳は正確無比であることでも知られている。羅什の翻訳は、直譯的で正確さを持ち、仏典の精神をつかう。かのうやすく訳すことに重きがあるといわれている。

五胡(漢以外の五つの異民族)

(1) 鮮卑(ルル系) — 前燕、後燕、北魏

(2) 匈奴 — 汉、前趙

(3) 羯(チイ) — 前秦(苻堅)

(4) 羯(チイ) — 後趙(石勒)

(5)羌(キョウ) — 後秦

(420-589)
南北朝時代

異民族を統一し、民衆を治めるために、仏教が必要である。

(十八史略)

トインビー 歴史の研究⑤

(312~361)

項 目	内 容	備 考
第五篇 第3章 魂の分裂 (312~	<p>1. 内面的、精神的な魂の分裂 社会全体の分裂は、表面的に見える。 しかし、その意義は、内面的かつ精神的な裂け目の、外面向的な目に見える徵候である。その底には必ず人間の魂の分裂が見い出される。 能動的、受動的、いづれにせよ創造的でない二つの極に分かれる。</p>	
第4章 解体期の社会と個人との関係 (328~	<p>2. ミメシス(模倣)の能力 天才的な少数の創造的人格と、多数の機械的大衆の結合が新しい社会を形成する。 しかし、成長から解体への変化とともに、創造の火種は消え、創造的少数者は、もはや創造力を失って、支配的少数者に変貌する。</p>	
第5章 解体のリズム (330~	<p>3. 成長のリズムと解体のリズム 成長した社会に衰退が起こると、それに対抗するために二度目の挑戦があり、それが成功すれば、ふたたび成長が開始される。この衰退と応戦がくり返されるが、応戦の失敗が最終的なものになると、その社会は滅亡する。第二次世界大戦の終わりに原子力の解放を見たとき、われわれの将来に対する暗い疑念がわき起こる。</p>	
四大文明と死後の世界		
(1)中国		
人間の生命は天地から与えられたものである。 人間は死んだとき、二つのたましいは、「魂」は天に帰り、「魄」は地下に帰る。「魄」は肉体に残り、地下の世界に住む。それが墓である。死者は現世と同じ生活をするが、地上に出るときは廟に出て来て人間と会う。		

項 目

内 容

備 考

(2)エジプト

現世はあくまでも来世のための準備の世界である。四二の罪を犯していないことが証明されれば、あの世への鍵をもってあの世へ入る。

あの世では、神様と一緒に住み、年に1回、この世に戻ってきて、ミイラと精霊と合体し、自分の子孫と出会う。

ナイル川をはさんで、あちらがあの世で、こちらがこの世である。死ぬために現世で何をするかというと、1番最初にまずお墓を確保する。そして、死ぬとミイラ(体)と精霊と魂に分ける。魂はあの世へ行って精霊とミイラはこの世に残る。年に一度、魂はミイラに戻り、精霊もミイラと一体化する。だから死者は永遠である。

(3)メソポタミア

墓がない。天国へ行くとか、地獄に行くとかということはない。死は宿命であり、だから現世を楽しむのであって、死後の世界がどうのこうのいうのではない。人間は死んで終わり、泥に戻る。

(4)インダス

人生は一回で、あとはインダス河に流すような感じ。

(5)文明とは何か

文明は一人の特権階級のものか。99%は捨てられている。文字というのは、あくまで支配している人たちの限られた道具、支配者は住民は殺さない。多数の住民をどう合理的に支配するかを考える。侵入破壊者など居ない。

土地にくついた農民は、征服者にとっては大事な財産。文明とは1%の表現である。だから文明の滅亡は何か。

(四大文明)

項 目	内 容	備 考
-----	-----	-----

第六編
世界国家
(344~

1. 世界国家と不死の幻影
 (1)世界国家は、衰退した文明の社会体に政治的統一を与えたものである。それは、本物の夏ではなく、秋を覆い隠し、冬を予告する小春日和である。
 (2)それは、創造力を失ったかっての創造的少数者の消極的所産である。
 (3)それは、解体の過程における一つの立ち直りである。
 (4)社会解体過程の一つの局面であり、老人の頑固な寿命である。

世界国家は一夜の宿であり、「約束の地」ではない。しかし、長い間逃げどおしで立ち止まる余裕のなかった動乱時代の敗走からの立直りであるから人々の感情を虜にする。

第3章
だれのために
(353~

13. The Entrepreneurial Business

2021.09.06

イノベーションと企業家精神

情報革命と人工知能

廃棄できるか

駅馬車は鉄道を生まない

鉄道(古いものは)は、自動車(新しいもの)を生まない。

経営管理者に対して、イノベーションを魅力あるものにする方法は一つしかない。つまり組織的な廃棄を行うことである。

- (1) もはや活力を失ったもの
- (2) 古くなったもの
- (3) 生産力のなくなったもの
- (4) 間違って努力しているもの
- (5) 失敗したもの
- (6) 方向の違うもの

イノベーションを推進するには

一つ一つの製品、工程、技術、市場、販売網、スタッフ的な仕事について今後も続けるべきか否かを徹底的に検討する必要がある

15. The New Venture

イノベーションと企業家精神

情報革命と人工知能

ベンチャービジネスにおける企業
家の経営管理

- (1) 市場志向でなければならない
- (2) 財務上の見通しがなければならない
- (3) トップ経営陣を持つようにならなければいけない
- (4) 創業者の役割、仕事範囲を決め
ておかなければならない

16. Fustest with the Mostest

2018.08.27
2018.10.29

イノベーションと企業家精神情報革命と人工知能

1. シュムペーター

- (1) 企業家
- (2) イノベーション
- (3) 創造的破壊

2. 移動

モノ・カネ→ヒト
管理→イノベーション

3. シェムペーター

ドラッガーが継承、提唱し、
ジョブズが実践した

4. チャールズ・ダーウィンの進化論

最も強いものが生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるものでもない。

唯一生き残ることのできるものは変化できるものである。

5. ヒト・モノ・カネから

ヒト・ヒト・ヒトへ
ナイキの「Just Do It」

6. 資本主義とは、経済とは

1960～70年代のジレンマ
理想…共産主義
現実…アメリカに対する憧れ

宇宙のあらゆることは、絶えず変化する。坐り込んでいて、どこまにかんこむ生活を取らざるを得ない。

しかば、この宇宙の一切を変化させる本源とは何ですか？ それは(我欲)ニ

菩提と佛の慈悲の力がかかる

これを翻訳して「南無妙法蓮華經」というのです。宇宙と人間の根本法です。

これを悟られた方が、日蓮大聖人に自身なります。

アインディアは既存の要素を新しい組合に外の何モノで作る。

「アインディアの「作り方」」 22-L2.W.X=7-

それを何モノで作るかではない... 既存の要素の組合で作る...

シンハーラーの新結合

物質的要素の組合

新結合の対象となる物質が、旧結合に毎回戻ってきていたりはしない

シンハーラーの景気循環

①ハーンシンハーンの主要因

②ハーンシンハーン、景気循环の一过程

不況と経済発展の調整過程

ハーンシンハーンの2つの侧面

経済発展の主要因

景気循环の主要因

①コトライクの循環 (5年周期)

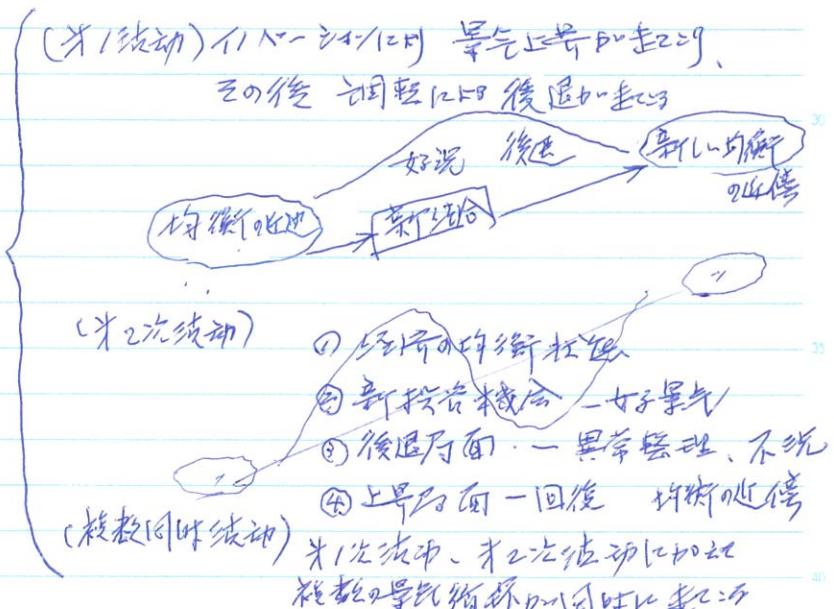
ニコル・エントラーフ
会社、文化の建設
技術革新、電気自動車

②シカゴの循環 (7~10年)

J.C.ジニアード
鉄道建設と循環

③モードの循環 (40年)

アム・モード
衣類、装飾の変遷



ケインズ

不況の要因と、有効需要の不足による、この対策として 政府の投資を
公共事業の推進

一日の需供給量が、有効需要と均衡している下で、失業は発生しない。

ジョンストン

資本主義の成熟化崩壊の原因による

組織化階級化、企業精神の衰退による。

大企業化による不景気の悪化、必要悪であり、これが企業精神の衰退を招く

第三次世界大戦後

↓
トランク化資本主義

↓

経済成長による規模化不行

↓

(技術革新の無効化) → (企業者の無効化)

(公共政策の軟弱化)

トランク化資本主義と第三次世界大戦

不可能性

中小規模化の促進による、

また企業精神の復活

↓

(技術革新活性化、会社化)

(教育の充実、知識人の活動)

↑

(個人的利害の争い減少化)

(財團的運営による自由化政策)

↓

生産手段の付属化 → 中央集約化

生産自体の変化

社会主義的・非個別の出現

第三次世界大戦の後の公営管理

新規開拓地を目的とした移住

物価管理、都市計画、食糧供給体制による公営統制

社会保障制度、公営企業の引当金制度、扶助金

中央集約化公営化 ←

(交通機関の運営)

シエラノ-タの経済発展の理論

生産構造下、たゞす変革とは資本主義経済の動的過程を分析するためにある。

循環的流れ

(静態的過程)

資本の経済表

定期的再生産

→ 経済発展の基盤はどこから生ずるか？

2つの事業と社会発展の概念

(1) 历史的状態は不斷に變化す

この変化は、反復と並び上昇的循環を形成するものと並行して、一つの中心をめぐる振子運動の長い。

(2) あらゆる歴史的状態、元より先行する状態へ

未解決問題の存在

歴史的進歩

新しい可能性に対する特殊な指導者(型)能力

(1) 事業者の特殊方法

(2) 既存の先進的進歩、不確実性に対する抵抗能力

(3) 权威

個人的影響力

(4) 在り

"

(5) 人在組織的能力

"

企業者と労働者と争力

- (1) 私的市場と建設(日本と競争する意志)
- (2) 勝利者意識
- (3) 創造の喜び

) 企業と創出するもの

労働者の人間

企業家と経営者

現代日本の病状 — 企業部門と停滞感

私的市場の建設

ヒューリック — 1912年小帝國

セラフス

勝利者意識

創造喜び

洞察と行動の自由

本店行使其を確実に把握し、非本店行使其の区別削除

精神の自由

意識の変遷、解放

反抗性と勝つ意志

銀行家

企業者は個人的実現する=生産手段を必要とする

企業者はATMで購買力を提供し、企業家と生産手段を持つ銀行家との連携

郵便局と銀行はとも者と生産手段の間に立ち、つなぐ

企业家の戦略

1) ハーバードと企业家の戦略

1. 企业家精神 (市场的な地位の確立)

(1) 企业家の経営管理

企業の内部における政策と実践!

(2) 企业家の戦略

企業の外部市場における政策と実践!

2) 戦略 (市場的地位の確立)

① 総攻撃にて攻撃する

② 手薄なところを攻撃する

③ 生活的地位を確保する

④ 製品や市場の性格を変える

Fustest with the Mostest

一度の大爆発で敵を撃滅し、失敗は許されない
Hit them where they ain't 独占地位の確立

Eco logical Niches

小さく複数の市場にて独自の地位を確立する

The Entrepreneurial Society 企業家社会

すべて、それぞれの世代は、新しい革命を必要とする
— トーマス・ジェファーソン —

存在の理由はもはやなくなり、かつての恵みは、悩みの種となる
— ゲーテ —

組織、制度、政策は、製品や工程やサービスと同じように、生命を失ったあとも生き延びようとする。

一度つくりあげたメカニズムは、いつもでも生きつづける。
しかし、それを設計する際に前提となつたものは妥当性を失っているのである。

たとえば、過去 100 年にわたって、先進諸国において医療制度や年金制度を設計した際に前提とした人口動態統計がその一例である。
まさに「存在の理由は、もはやなくなり、かつての恵みが悩みの種となる」のである。

イノベーションは分権的である。

2021.09.06

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 11 日 21:34

宛先: peijun zheng

件名: 卷十一史记《孝景帝本纪》七国之乱

汉景帝在位 16 年（前 156～前 141）中，前 154 年正月发生反乱，史称吴楚七国之乱。

景帝也是不及文帝，但是天下安定。不再担心异姓诸侯的反叛了，

然而晁错建议大力削夺同姓诸王的封地，使的吴，楚七国一向起兵反叛，

联合向西进攻朝廷，称吴楚七国之乱，吴王刘濞为师出有名，

打起，“请诛晁错，以清君侧”的旗号。

七国公开的消息传到长安，景帝商量对策，袁盎说，“吴楚起兵完全由削藩引起，只要杀了晁错，归还诸王被削地，他们就会罢兵”。景帝采纳袁盎的意见，将晁错罚死。

但是，吴楚军下清君侧的伪装，继续出兵反叛，并宣布自己是“东帝”。

景帝这才明白杀了晁错，下决心发兵平乱。

七国之乱前后仅两个月彻底平息了。

2021 年 8 月 11 号

iPad から送信



9.汉景帝在平定七国之乱后，借此机会把王国的行政权和官吏任免权收归中央，贬王国丞相为相，废除王国的御史大夫，进一步削弱了王国势力，加强了中央集权。

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 12 日 8:05

宛先: peijun zheng

件名: 卷十二史记《孝武帝本纪》张骞使西域

汉武帝刘彻是景帝的儿子，16岁继承帝位。

武帝在位 54 年（前 14~前 87），占西汉统治时间的四分之一。

武帝即位时，经过汉初六七十年社会生产力的恢复，发展，国力已强。

武帝用，卫青，霍去病的将军等战争匈奴，大打击给匈奴，但是匈奴有力。

武帝主要目标，反击匈奴的入侵，就近灭毁匈奴。

武帝为战胜匈奴，

大月氏过去受匈奴欺侮。武帝决心联络大月氏，共同对付匈奴。

前 138 年，武帝公开招募向大月氏的使者。

青年郎官，“张骞”应募，被武帝选中。

张骞，前 139 年出发长安，

那时从西汉到西域没有通道，他途中被匈奴俘虏十年左右。

他终于找到大月氏，但是大月氏没有再向匈奴报仇的意志。

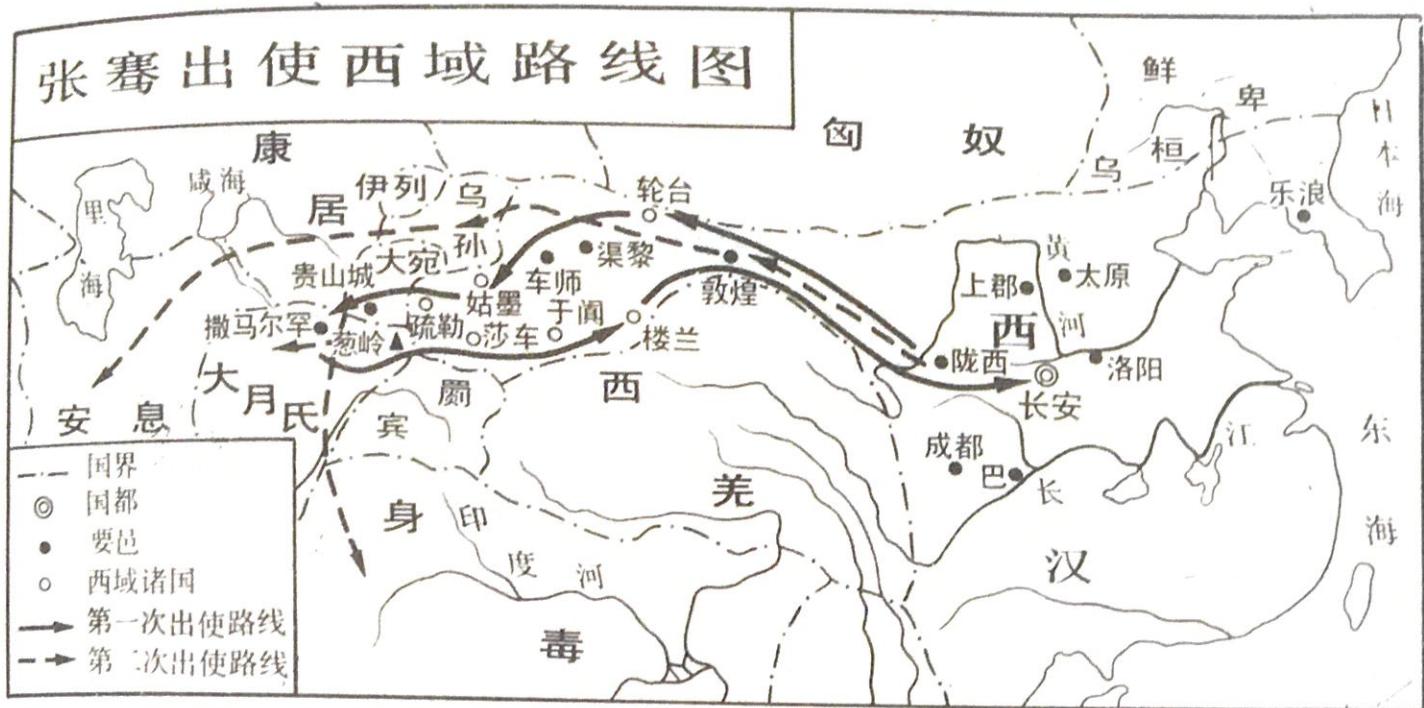
到前 126 年，前后 13 年，张骞和他的向导唯有二人回到长安。

前 119 年，他再次向西域使节。

以后交往西域越来越频繁。

2021 年 8 月 12 号

iPad から送信



20. 张骞两次通西域的军事目的虽未达到，可是他却打开了汉与西域间的通道，这在中国历史上是第一次。这一通道后来成为闻名天下的“丝绸之路”。



差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 12 日 8:55

宛先: peijun zheng

件名: 卷十三史记《三代世表第一》

司马迁说，五帝，三代之记很远，不明白。

孔子编著“春秋”，“向书”，记录不齐全，连年才也没有。

五帝是，“皇帝”，“颛顼”，“喾”，“尧”，“舜”。

自殷以前诸侯不可得系谱，周以后可明白。

我们可以把握五帝，夏，殷商，周的历史。

“年”表示年一年的表示，“世表”是帝王一代一代的表示。

2021 年 8 月 12 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 12 日 20:17

宛先: peijun zheng

件名: 卷十四史记《12 诸侯年表》

周王朝下的诸侯国的年表。

周共和元年（前 841）到周 26 代敬王末年（前 477）。

这里含春秋时代（前 722~前 481）。

诸侯国是，鲁，齐，晋，秦，楚，宋，卫，陈，蔡，曹，郑，燕，吴和周朝的系谱。

2021 年 8 月 12 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 12 日 20:39

宛先: peijun zheng

件名: 卷十五史记《六国年表》

从周朝二十七代元王元年（前 476），到秦二世三年（前 207）的年表。

魏，韩，赵，楚，燕，齐的六国，加上秦朝和周朝，计八国的系谱。

这时期含，晋为韩，魏，赵三国分裂周三十二代威烈王二十三年（前 403）和秦天下统一（前 221）和秦始皇统治时代。

2021 年 8 月 12 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 13 日 5:29

宛先: peijun zheng

件名: 卷十六史记《秦楚之机月标》

“秦楚之机”意义，项王项羽打到秦朝之间秦和楚的交代时变迁的（月别）月表。

这七年，陈胜叛乱秦，和楚王项羽打到秦朝，汉高祖平定海内，升帝位。

这期间，变迁三次支配者，陈胜，项羽，刘邦。

很短的时间内，这样的变迁历史上稀有的。

所以作月次变化表。

2021 年 813 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 13 日 5:52

宛先: peijun zheng

件名: 卷十七史记《汉兴以来诸侯王年表》

汉高祖到汉武帝之间 105 年（前 206～前 101）的封王者兴王年表。

就是，楚，齐，荆，淮南，燕，赵，梁，淮阳，代，长沙的 10 国的兴衰。

刘氏以外的王是，齐王韩信，淮南王英布，燕王吕布，赵王张耳，梁王彭越，长沙王吴芮等。

他们就王很短期间，大部分途中灭亡，不久到刘氏王一色。

2021 年 8 月 13 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 13 日 6:05

宛先: peijun zheng

件名: 卷十八史记《高祖功臣侯者年表》

侯者是封侯的人。

这就是，曾参，陈平，张良，萧何等高祖的名臣，功臣和他们的后裔 143 国的动向。

时期是高祖元年（前 206）到武帝后元二年（前 89）。

这期间符合的国名有 143。

2021 年 8 月 13 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 14 日 6:25

宛先: peijun zheng

件名: 卷十九史记《惠景间侯者年表》

第二代汉惠帝（在位前 194～前 188），到第六代汉景帝（在位前 156～前 141）之间中，为功劳成了封侯的 94 国的年表。

司马迁说，春秋是，上明白三代之道，下明示人的规范。

判断嫌疑，明示是非，明确犹预，评定善恶，区别贤愚，复兴灭国，兴起断家，再起灭传统。

这是王道也。

春秋是，鲁隐公元年（前 722）到哀公 14 年（前 481）的 12 公，242 年间，鲁国的记录，

国家大事的略记。

孔子编著的编年代历史书。

2021 年 8 月 14 号

iPad から送信

差出人: yamauchi masaki

送信日時: 2021 年 8 月 14 日 8:37

宛先: peijun zheng

件名: 卷二十史记《建元以来侯者年表》

汉武帝时代为功劳侯封者的一览表，载国名 73。

建元元年（前 116）是武帝即位年，以下，元朔，元狩，元鼎，元封，太初，天汉，

太始，征和，后元的十一年号。

司马迁说，

易经表现天地，阴阳，，四季，五行，故长见变化。

易经是，古代占筮书。成为“经”部分和“十翼”部分。

由“经”的八卦画和“十翼”，判断吉凶，展开世界观。

2021 年 8 月 14 号

iPad から送信

21. The Way-Ahead

(未来は予測しない方向へ変化)

2021.09.06

2020.07.09
2018.08.02

Next Society 2002 年AI と ICT

1. トップマネジメントの役割のあり方

- (1) 実験と試行
- (2) トップの見直し

2. 企業の実験

- (1) 現状も組織構造の限界
 - (2) 提供、合算のあり方
 - (3) 組織構造の見直し
 - (4) 集中と製品多角化の新しいモデル
 - (5) 人事管理の変化
 - (6) 全員の仕事振りの必要
 - (7) 正社員の見直し
- 若年化の必要性

3. 外部に情報と組織の思考態度

- (1) 組織の内部情報しか持っていない
 - (2) 情報の例示ではダメ
 - (3) チェンジ・エージョンとたれ
 - (4) 廃棄すべきものの廃棄
- 生残りの要諦
インターネットの発展

4. 二つの産業革命との類似

5. The New Economy Isn't Here Yet

(E-社会を変える)

2018.07.31

Next Society 2002 年

AI と ICT

1. Net はマルチブランド

- (1) フォードのディーラーは、フォード 障害はディーラーの問題
だけを扱う
- (2) ネット企業は、あらゆるメーカーの 車を扱う(大きな優位性)
- (3) 消費者は、あらゆるメーカーの車を 選択する

2. イノベーションの大切さ

- (1) 創造的破壊
- (2) チャンスは一度きり
- (3) 老廃物は捨てなければならない

3. 分割による再生

- (1) 領権は自滅する
- (2) マイクロソフトにとって分割は最善だった

21世紀を変える 工革命

流通技術の進歩、データの蓄積、AIなどの技術

製品、サービス、市場構造の変化

社会、経済、市場、産業構造の変化

製品、サービス、流通、消費行動、市場構造の変化

社会、経済、政治、文化、思想など社会の変化

予想外の技術、エビデンスと判断のため手を貸す。

印刷革命（1455年）

フランクの印刷機

産業革命（1800年）

蒸気機関

工革命（1750年）

1782-9-

これが最初の50~70年の間に起こったこと、150年後の後である。

工革命が最初から始まっているわけではない。

社会、経済、政治、文化、思想など社会の変化

AIとデータの出力

AIとデータの出力

X-11-1

差別化の武器

(1) ハードル → ソフトル → デジタル

行々

情報

21112

ICT 行々123

(2) 周囲の組織、周囲の專業主義、周囲の人々

(3) X-11-1の衝撃 企業活動の変化、政策

距離の近さ、距離感、顧客に対する理解度



差別化要因

組織を周囲の組織から必要とする。

距離感、距離を克服する

X-11-1、距離を縮む

(4) 距離を縮む X-11-1 X-11-1

・距離感をなくす(距離を縮む)



个性化の進歩

(会計事務機関)

(5) 个人-社会のインテグリ

大流行の元

4. 変化とバランス

(1) 短期と長期のバランス

(2) 変化を観察する

(3) 本物の変化とは人の行うこと 人の話

(4) 一時の変化とは人の話すこと 人の行動

5. 明日のトップが果たす

(1) コーポレートガバナンスの理解

(2) 外の世界に起きることの理解

(3) 明日の CEO は、命令者とパートナーである

(4) 重要なのは、知識労働者の生産性の向上

(5) みんなが生産的に働くことを考える

6. ドラッガーは言う

(1) 1984 年以降、私は中国に 6 回行った

(2) 一番最近は、2004 年だ

(3) そこで私は大変なものを目撃した、未来さえ垣間見た

The New Economy Isn't Here Yet

中12の時代

1984年に東、西日本で中12回行つた。一考最近は2004年後。

あひでり大変なものも見聞した。未来さう垣内見た。

2004年に17世纪に世界最大の経済大国。

18世纪に新古典主義を特徴とするイギリス・フランス。

19世纪はアメリカ。

20世纪は日本。

21世纪は中国と日本。

A company should be able to eliminate its waste.

The human body does it automatically. In the corporate body, there is enormous resistance.

Abandonment isn't that easy.

(A)

1. アシア危機

(1) 情報収集の実践

何を始めに情報の検討、考え方

(2) データを用いた検討

既存報告の收集、分析や考察

(3) AIによる分析

データの入手、蓄積 → データの情報化 → 事前に何が可?

データの意味化

考え方

情報

事前対応

クレーフィングの分析等

背景の要因①人材集中

②金融部門

③ISM、生産
は?

データの分析結果に対する行動を取る

(B) 外へ出かける

アジア経済危機不景気の中進む会社の経営方針は、

外部の意味での情報の重要性を教える。

外見と内見、外へ出かけて行動、自分自身をいかない

(1) アジア市場大手企業のエコノミー、スリム化は、ヨーロッパの侵略を許さない。
日本企業は世界中で、どこかで何かある。ヨーロッパでは、日本は日本とす
る産業専門性、国際化、本拠地化が進んでいた。一方、技術力は低い。
一方で、技術力を回して競争する

(2) アジア最大の病院用品卸会社、CEO自身が手に4月1日、2月12月14日
休暇を取り、マスクを代理してはいる。他の社員も幹部も休ませている

(3) 医療機器成套する最高の方法で、自己製造の医療機器を購入して販売

(4) 外の世界の情報を得る、自ら考む、AIで分析、最高の技術を使わない。

(2) X52
No.
2019.02.04
2018.07.28

Next Society

1. Beyond The Information Revolution (知っているのは non customers)

2020.07.20
2017.08.01

Next Society 2002年

AI と ICT

1. IT 革命の先に何があるのか

(1) e コマースが世界を変える

- ①社 会
- ②経 済
- ③世界観
- ④新産業の出現

中国のアリババ

e-コマースはITインターネットの成果

IT e-コマース→新しい世界、新産業

蒸気機関→鉄道→新しい世界、新産業

(2) 製品やサービスの取引

- ①製 品
- ②サービス
- ③流 通
- ④消費者
- ⑤消費行動
- ⑥労働市場
- ⑦知識労働者の求人求職
- ⑧大流通チャンネルとしてのインターネット

センサー、無人化

2. 新しい社会の入口

2001秋、貿易センタービルテロ
アマゾン、エイバブル、マイクロソフト
グーグル、スティーブジョブズ
米国の信頼の変化

e-コマース (配送の変化)

経営と専門職の変化

経済と政治の変化の加速

市場と産業の変化の加速

製品とサービスの変化

新型コロナウイルス
インバウンド、ショッピングモール
テレワーク
政府の役割、政府の予算

政治と経営の変化
産業と市場の変化
製品とサービスの変化の加速
人間と社会の変化の加速

Next Society 2002 年

3. 1455 年グーテンベルグの印刷革命以来の道

(1) 18C 後半から、19C 後半にかけて産業革命
がたどった道

(2) IT 革命の最初の 50 年の道

4. ムーアの法則

(1) コンピュータの性能は 1 年半で 2 倍になる

(2)

5. 産業革命が、工場と労働者階級を出現させた

(1) 農業から工場へ労働が移った

(2) 鉄道が、世界の経済と社会と政治を一変させた

(3) 鉄道は、心理的な地理概念を変えた

(4) e コマースは、産業革命における鉄道と同じである

6. e コマースは距離を消去した

(1) もはや世界は一つの経済、一つの市場となった

(2) e コマースには何が乗るかわからない

(3) 商店からスーパーへ、スーパーからチェーン店へ

(4) e コマースの変化は予測しがたい

爆發的

AI と ICT

知識の普及、革新

ワットの蒸気機関 1785
44年

鉄道の実現 1829
30年

(近距離新聞、銀行) 1860
コンピュータの実現 1945

45年

インターネットの実現 1990
30年

(e-マーケット、AI、) 2020

(鉄道は、物理的距離を克服)

(eコマースは、距離を消去)

(eコマースは、感情的、心理的距離を
物理的距離を克服)

7. 40 年前、20 年もすれば新聞は画面に変わるだろう *とき、七人かずか*

- | | |
|--|-------------------------------|
| (1)しかし、未だ金脈を掘り当てた新聞は少ない | TV 時代の予想 |
| (2)しかし、20 年前にアマゾンは、予想に反して
本の通信販売に成功した | 速さの予想
新聞は飛行機でなく
て蒸気船なのか |
| (3)中古車でなくて、新車はインターネットで販売されている | |
| (4)証券販売も予想外にインターネット化しない | |
| (5)マネジャーや専門家の求人求職は、インターネット化している | |

8. e コマースのインパクト

- | | |
|-----------------------|------------|
| (1)流通チャンネルは、顧客が誰かを変える | 顧客、商品、消費行動 |
| (2)何を買うかを変える | |
| (3)消費行動を変える | |
| (4)産業構造を変える | |

9. 伝統や慣習

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| (1)そんなに古いものではなく、早い目に捨てなければならない | そんなに長い歴史のあるものではない |
| (2)伝統や慣習こそイノベーションが重要 | その時とのイノベーションである |

9. 起爆に続く爆発

- (1) 鉄道は、100年近く続いた
- (2) 1830年代に電報と写真が現れた
- (3) 次に光学機器と農業機械が現れた
- (4) 公衆衛生が成長部門となつた
- (5) 新たな社会制度、近代郵便、新聞
投資銀行、商業銀行が発達した

1829年→1929年
近代が現れた

10. 逆転

- (1) 人口構造の変化、若年人口の減少、出生率の低下
- (2) 富と雇用の生み手としての製造業の地位の変化
- (3) 労働力の多様化
- (4) 高齢人口の急増
- (5) 国内市場の激変

11. 人事管理が変わる

- (1) フルタイムの正社員の人事管理
- (2) 企業に働くもののすべての人事管理
- (3) 会員の働きぶりが重要
- (4) 契約ベースの社員

*主 (5) 人々や組織を必要とするに、
組織から組織外の人々を必要とする*